

# 言葉巧みに社会風刺

甲南大 胡教授 中国の笑い文化紹介

●港区

甲南大 本笑いの特徴を比較  
国際言語「する」と題した講演会  
を開き、シヨークをは  
じめとした中国の多様  
な笑い文化を紹介した。  
日本笑い学会（井上  
宏会長）が毎月1回開  
いてるオープン講座  
の第162回。哲学、  
心理学、文芸学、人類  
学、医学など各専門分  
野の研究者らを講師に  
招いて、市民参加型の  
笑い文化の研究に務め  
ている。



中国の笑いの特徴を説く胡金定教授

胡教授は中国福建省  
出身。厦門大卒業後、  
同大専任講師を経て1  
985年に来日。大阪  
外国語大修士課程、神  
戸大博士課程を修了  
し、96年から甲南大で  
教壇に立つ。専門は日  
中比較文化。  
講座では、司馬遷が  
編集した中国の歴史書  
「史記」の滑稽列伝や、  
邯鄲淳の笑話集「笑  
林」などを例に挙げて  
シヨークの歴史を紹  
介。「活字になりにく  
い政治的風刺も豊富  
で、今なお厳しい言論  
統制下にあるにもかか  
わらず広く民間に流布  
している」と説明した。  
また、狂詩「打油詩」  
などに見られるように  
「典故を踏まえたもの  
が多く、ある程度の知  
識がないと面白みが分  
からない」と分析。ほ

かにも日本と同じよう  
な謎掛けや字解きなど  
言葉遊びも豊富で、「言  
葉を巧みに使うものが  
多く、社会の変化に密  
接な風刺が好まれる」  
と特徴を解説した。

漫才やコントなども  
あり、中国の漫才「相  
声」は基本的にツッコ  
ミで終わる日本の漫才  
と違ってボケで終わる  
といった相違なども紹  
介。「古代から笑いは

健康をもたらすと考え  
られおり、笑い文化は  
脈々と受け継がれてい  
る。国の発展にも欠か  
せない」と笑いの重要  
性を強調した。

大 阪 日 報 新 聞